

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32682

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23023

研究課題名（和文）天正少年使節と慶長遣欧使節の関連性とニュースとしての版画制作

研究課題名（英文）The relationship between the Tensho and Keicho embassies and the production of prints as news

研究代表者

藤川 真由（Fujikawa, Mayu）

明治大学・大学院・特任講師

研究者番号：20848866

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000 円

研究成果の概要（和文）：従来、天正遣欧使節と慶長遣欧使節は個別に研究されることが多かった。本研究は両使節に焦点をあて、その外交・美術面における関連性を調査した。本研究では、慶長遣欧使節を派遣した伊達政宗、そしてルイス・ソテロなど使節の構成員だけでなく、彼らを迎え入れたヨーロッパ人も、約30年前に渡欧した天正遣欧使節を意識していたと解釈する。また、両使節を描いた作品を包括的に分析し、特に彼らを描く版画、並びに彼らに纏わる情報がどのように伝達されまた受容されたか辿った。非ヨーロッパ圏の他国から渡欧した使節の図像も考察し、日本使節の描かれ方をより大きな国際的枠組みの中で調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、ルネサンス美術に関する研究において、ヨーロッパ圏と非ヨーロッパ圏の交流に関する関心が高まっている。本研究の成果を英文学術書『Envisioning Diplomacy: Images of Japanese Ambassadors in Early Modern Europe』（単著、2025年出版予定）にて発表することにより、国内外の研究に貢献することが出来る。また、拙書は全世界に向けて出版されるため、日本の発信力の向上に繋がる。

研究成果の概要（英文）：This study has focused on the diplomatic and artistic relationship between the Tensho and Keicho embassies, which are usually studied separately. I maintain that Masamune Date who dispatched the Keicho embassy, Luis Sotelo and its other members, and the Europeans who received them were aware of the Tensho embassy, which had visited Europe approximately thirty years before. My study has also analyzed visual images of the two embassies comprehensively and traced in particular the diffusion and reception of prints that depict them and textual information concerning them. I have further examined the depiction of the Japanese embassies from a larger international framework by investigating the visual representations of other non-European envoys to Europe.

研究分野：美術史

キーワード：天正遣欧使節 慶長遣欧使節 日本使節の歓迎 教皇庁の外交儀典 版画の制作と流通 日本に関する情報の伝達と受容

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

天正遣欧使節(1582-1590年)は、日本人として初めて訪欧した使節である。使節は、セミナリオの生徒であった伊東マンショ、千々石ミゲル、原マルティノ、中浦ジュリアンから構成され、彼らはイエズス会宣教師に伴われてヨーロッパの地を踏んだ。それから約30年後、伊達政宗はメキシコとの貿易を実現するために、家臣支倉常長とフランシスコ会宣教師ルイス・ソテロから成る慶長遣欧使節(1613-1620年)を派遣する。

従来、天正遣欧使節と慶長遣欧使節は別々に研究されてきた。しかしながら、本研究ではその関連性を考察し、また美術史の観点から、大航海時代に訪欧した日本人がどのように描かれたのかを総合的に考察することを意図した。

2. 研究の目的

本研究は、天正遣欧使節と慶長遣欧使節を主に外交の観点から関連付け、彼らの描かれ方、及びその美術作品の制作背景や意義を考察することを目的とする。特に、以下の点に注目した。(1) 天正遣欧使節と慶長遣欧使節を隔てる30年の間、日本に関してどのような情報がヨーロッパにもたらされたのか。またその情報は、ヨーロッパにおける両使節の接遇にいかなる格差を生じさせたのか。さらに、伊達政宗、慶長遣欧使節、さらに彼らを迎え入れたヨーロッパの人々は、天正遣欧使節をどのように意識していたのか。(2) 安価に短期間で大量生産できる版画を一種の「illustrated news」として解釈し、版画や両使節にまつわる情報がどのようにヨーロッパ各地へ広まったのか検討する。(3) 日本使節だけでなく、他の非ヨーロッパ地域から来訪した人々を描く西洋美術作品を併せて分析することで、その共通点と関連性を見出す。

3. 研究の方法

先行文献を整理し、イエズス会年報(日本での布教に携わっていたイエズス会宣教師が、ローマ本部に送った日本情勢の報告書)などの刊行物や未発表を含む手稿文献を調査した。また、日本及び他の非ヨーロッパ使節を描く作品を細かく分析した。コロナ以前も現地で作品を観察したが、コロナ禍が落ち着いてからも渡欧し、現物を再確認した。特に、版画を含む日本使節に関する「ニュース」の流通を追い、作品の解釈を歴史的文脈から捉えるために関連文献を精読した。

4. 研究成果

天正遣欧使節と慶長遣欧使節の描かれ方、両使節の関連性、ヨーロッパにおける彼らの歓迎、彼らに関する作品と情報の流通等に関して、詳細に調査することが出来た。すでに研究結果の一部は国際シンポジウム(招待2件)、その他学術誌(論文3本)と書籍(共著1冊)を通じて国内外にて発表している。

さらに本研究の調査内容は長期に及ぶ厳正な査読審査を経て、『Envisioning Diplomacy: Images of Japanese Ambassadors in Early Modern Europe』と題して、Pennsylvania State University Pressから出版されることとなった。同出版社は、西洋美術史の分野で国際的に高い評価を得ている。また、米国の主たる学会、並びにルネサン分野の著名な専門図書館と研究所(Renaissance Society of America、College Art Association、Newberry Library、Harvard University Center

for Italian Renaissance Studies) から出版助成を得ることとなった。拙書を脱稿し、権威ある学術出版社と団体から国際的な評価を受けたことは、本研究にとって荣誉である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藤川真由	4. 巻 176
2. 論文標題 天正・慶長遣欧使節及び朝鮮人奴隸アントニオ・コレアに関するイタリア古文書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤川真由	4. 巻 159
2. 論文標題 「日本のセミナリオ、天正遣欧使節、慶長遣欧使節に関するヴァチカン図書館所蔵新史料」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリシタン文化研究会会報	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤川真由	4. 巻 169
2. 論文標題 天正遣欧使節の洋服	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Mayu Fujikawa	
2. 発表標題 The First Japanese Embassy to Europe: Soft Power Diplomacy Through Kimono Display and Gifting	
3. 学会等名 Crossroads in Early Modern Italy: Encounters between Foreign Travelers and Local Inhabitants（招待講演）（国際学会）	
4. 発表年 2022年	

1 . 発表者名 Mayu Fujikawa
2 . 発表標題 The Tensho Embassy's European Clothes: Court and Missionary Functions in Italy and Japan
3 . 学会等名 Beyond the Southern Barbarians: Repositioning Japan in the First Global Age (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1 . 著者名 Mayu Fujikawa	4 . 発行年 2025年
2 . 出版社 Pennsylvania State University Press	5 . 総ページ数 -
3 . 書名 Envisioning Diplomacy: Images of Japanese Ambassadors in Early Modern Europe	

1 . 著者名 Emily Michelson, et al.	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Brill	5 . 総ページ数 429
3 . 書名 The Religious Minorities in Early Modern Rome	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------